

— 講演会のお知らせ —

“21 世紀における日本・中国・台湾
三極構造の変化”

- 講師： 謝 寛裕 教授
台湾 真理大学国際貿易学系
- 日時： 12月15日(木)14:50~16:20
(質疑応答含む)
- 場所： 名城大学天白校舎 北講義棟 N102

第2次世界大戦後における日本の産業政策と発展の軌跡の分析には、雁行形態論(赤松 1935)が用いられることが多い。この20世紀の日本の経済成長モデルは台湾、韓国、香港、シンガポールの経済発展へと引き継がれ、それらの地域はアジアの四龍と言われる新興工業圏として成功していった。

この成長モデルの背景には、米国がこれらの国々の大きな市場として存在していた点がある。特に台湾、日本が米国との関係で三極構造を形成していたことが重要な点である。台湾は日本から機械設備や中間財を輸入して工業製品を製造し、その工業製品を米国に輸出していたのである。

しかし、21世紀に入り、中国のGDPが米国に次ぐ世界第2位となり、更には、21世紀中頃までには世界第1位になると予想され、この三極構造は、日本・中国・台湾という新たな三極構造へと変化している。今後中国は、20世紀に米国が果たしていた役割を担うのだろうか？日本と台湾はこの変化に対応する準備ができているのだろうか？

本報告では、この三極構造の変化への対応を中心に考察する。

参加申し込み：参加自由、事前申し込みは不要です。

報告は英語ですが、日本語逐次通訳付

名城大学経済・経営学会主催

アジア研究センター後援

【お問い合わせ先】経済学部 佐土井有里 sadoi@meijo-u.ac.jp